



【参加パネリスト】
 大谷孝彦氏 (武庫川女子大学教授)
 高田光雄氏 (京都大学大学院教授)
 田中淳氏 (京都チャンネル プロデューサー)
 元橋一裕氏 (京都CF! 編集長)
 吉田孝二郎氏 (無名舎主、祇園山鉾連合会副理事町)
 大島仁 (京都市都市計画局長)
 【コーディネーター】
 長谷川和子氏 (KBS京都 プロデューサー)

京都のINGを CHECK IT OUT!! コミ 情報 カタログ

景観・まちづくりシンポジウム
 メディアが捉える京都像とその現実

@ひと・まち交流館 京都



京都の景観を守るのには一部の識者ではない、 市民が一丸となることで景観への意識も変わる。

去る9月10日、(財)京都市景観・まちづくりセンター主催の景観まちづくりシンポジウム「メディアが捉える京都像とその現実」が開催された。「メディアが捉える京都像とその現実の関係を明らかにしつつ、街なかを中心に、市民が創る京都の魅力と価値、住まいとなりわいの有り様、そしてそれらが醸し出す京都の風情と景観を各メディア・各分野がどのようにとらえることができるのか」という関心高いテーマに駆けつけた人も多く、パネリストたちの声に真摯に耳を傾ける様子が印象的だったのと同時に、京都人の景観への関心の高さを改めて感じさせてくれた。そして、100年後の京都の姿・景観を取り上げたパネルディスカッションの中心となったのはやはり「町家」だった。

「二度壊すと、建築基準法により同じ町家は二度と建てられない」
 「ここ数年で、京都に現存する町家の13%がなくなっています。このままのペースでいけばどうなるのか?」

「町家を維持することはやはり大変なんです、改築するにも維持するにも費用がかかりすぎる」

「町家を改装して保存してくれるのはいいが、それは外観だけであり、内観に関しては原型をとどめていないことも多い」

「老朽化が激しく改装どころか、改築してしまわないといけないケースもあるだろう」

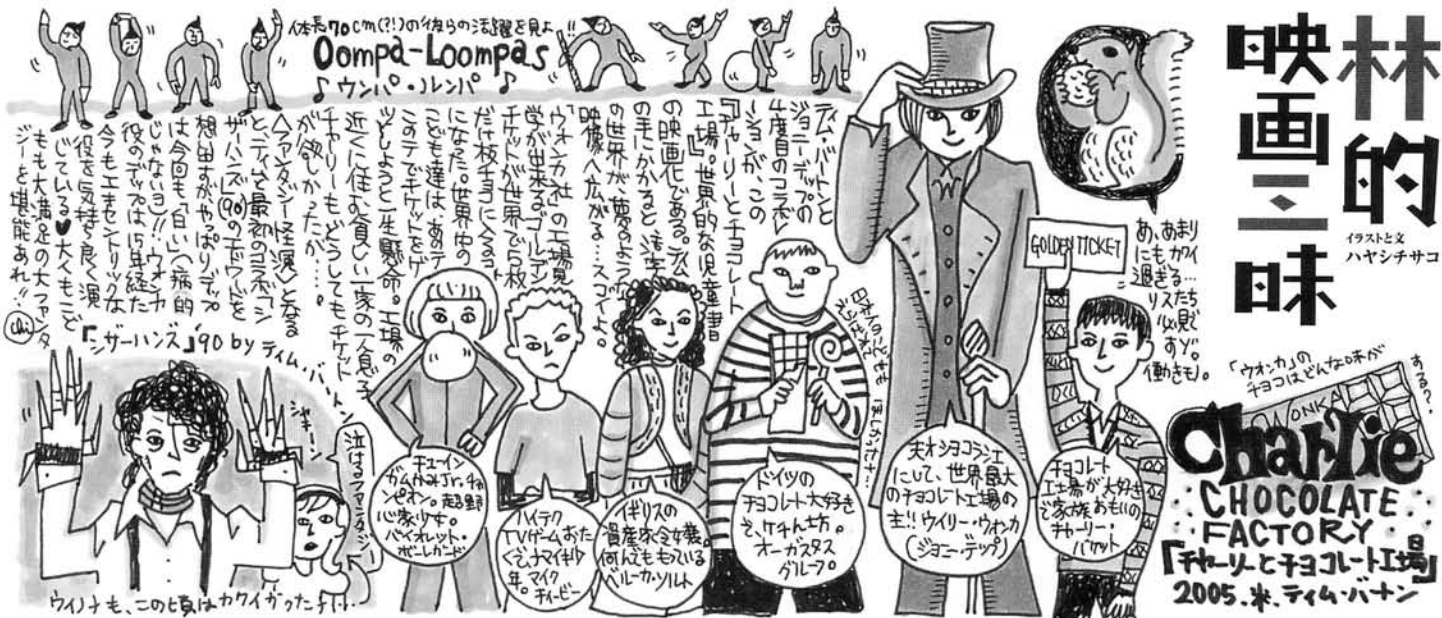
「空き家となった町家の担い手が、外資(京都以外の資本)による飲食店となるケースが多いのはいかがだろうか?」
 「飲食店はかりになったとしても、町家が保存していけるならそれは喜ばしいことではないか」

上記はこの日のパネルディスカッションの抜粋である。この日、各パネリストの立場でもって挙げたコメントは、貴重なものだっただろう。そして耳を傾けていた参加者の方々は、どう感じた、どう思っただろうか。京都市民の数からすれば、ごく限られた参加者数ではあるが、こういった取り組みや、シンポジウムを重ねることで、京都の景観に意識を向ける人たちが増えていくのではないだろうか。そのきっかけの一つが、この日であった。



(財)京都市景観・まちづくりセンター

■京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅津町83番地の1
 ☎075-354-8701
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp>



ハヤシチサコ・無類の映画好きのイラストレーターにしてグラフィックデザイナー。
 「Club Fame」時代には、彼女のデザインが表紙を飾ったこともあり、編集部への熱望により本誌への登場と相成った。